

古屋拉致問題担当大臣記者会見要旨

日時：平成26年4月4日（金） 8:49～9:00

場所：内閣府本府1階118会見室

1. 発言要旨

私からは、26年春の全国交通安全運動の実施について御報告を申し上げたいと思います。

閣議でも取上げられましたが、私からは、昨年末に交通事故抑止に資する取締りあるいは速度規制等の在り方の見直しについての有識者懇談会の提言書が取りまとめられていますが、警察はこの提言書に基づきまして取組を推進することといたしております。こうした中で初めて迎えるこの全国交通安全運動であるということでございます。各自治体や関係機関、団体と緊密に連携をして、子供と高齢者の交通事故抑止、これを運動の基本として、国民の意識啓発を始めとした交通安全対策に一層強力に推進をしていきたいと思っております。こういった趣旨の発言をさせていただきました。

私からは以上であります。

2. 質疑応答

（問）共同通信の江藤です。

先日、自民党の拉致の本部と拉致議連の会合がありまして、横田滋さんと早紀江さんが先日モンゴルを訪問した際に北朝鮮側から訪朝を要請されたことを明らかにしました。北朝鮮がめぐみさんの骨として出してきたものについて、ウンギョンさん側が、日本の悪い人たちが偽の骨だと勝手に言っているだけだというふうに話したということも明らかにしましたが、それぞれ受止めをお願いします。

（答）これはモンゴルでお孫さんとおばあちゃん、おじいちゃんがお二人で会ったときのお話でございます。あくまでもこれは会談というか、お二人が会った中でのお話でございますので、そういう話があったということを私たちは冷静に受止めております。特にこれによって政府が対応するという事は一切ございません。

（問）これに関連して、その際、訪朝を要請されたが、横田さん側はすぐに訪朝できないと、そういう誘いに関しては断ったと、そういう対応をされたことについては。

（答）家族会の決定でも、訪朝はしないということは既に決定いたしておりますので、当然、そのことは横田さん御夫妻もよく御承知をされていると思いますし、考え方に全く変わりはないと思います。

（問）北朝鮮側が訪朝をやっぱり誘っているというか、そういう一端がちょっと垣間見えたのかなとも思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

（答）北朝鮮が何を考えているか全て私が当然把握できるわけではないので、北朝鮮がそういう話をしたということは冷静に受止めています。それ以上のコメントは差し控えさせていただきます。訪朝するということはないと思います。

（問）NHK、川田です。

今日、つい先ほど、建設分野における外国人材の活用に関する緊急措置に関する閣僚会議というのが行われたと思うんですけども、それについて御所感というのを是非教えていただきたいと思います。

(答) 東京オリンピックとかパラリンピックに向けて、果たして建設の労働力が十分なのかという視点からこの会議が始まりました。今年の春先から始まりましたけれども。今日の中身の報告については官房長官が代表してやるということでございますので、私の所感としては、まずはこういった労働力の不足については、経験者の復帰、特に元気なお年寄り、今、公共事業が非常にこの何年も減ってきていますので、むしろ宅配便の配達とか、あるいはコンビニのアルバイトとか、要するに体を動かす分野ですけれども、違う職種に行っておられるお元気なお年寄りがたくさんいらっしゃいますので、まずこういった方々を復帰させるということ。それから若者、あるいは今、「ドボジョ」って言われていますけれども、土木に携わる女性のことを「ドボジョ」というそうですが、「ドボジョ」の皆さんの入職の促進を図るなどして、国内人材の確保対策、まずこれを徹底的に進める。可能な限り国内人材で賄うべきだと思います。

それでも、なおもって国内人材の活用でも労働者が不足するという場合には、これは私は国家公安委員長として、やはり不法就労とか不法残留、外国人犯罪の増加等、治安上の問題が生じないように事業者とやるとか、制度を所管する官庁の厳格な管理の下で、必要な数に限り外国人の活用を図るべきだ。そういう意味でのスキームを作っておくということは、ある意味でセーフティーネットの視点からは必要だと思います。ただ、受入れをもし仮に開始をした後に治安上の問題が生じた場合は、制度の見直しを含めて、速やかに対応する必要があると考えています。

(問) 共同の江藤です。

国連の人権高等弁務官事務所が国連特別報告者であるダルスマン氏が今度、東京を訪問するというふうに発表されました。大臣とも面会する予定だというふうな報道なんですけれども、実際会われるのか。

(答) そういう報道、お見えになるということは承知しておりますので、向こうの御要請があれば私も日程を調整させていただきたいと思います。

(問) こういう話をするとか、そこまでまだ決まってない。

(答) いや、まだ中身は決まっていません。

(問) 話題は変わるんですけども、先ほど閣議の後に新藤総務大臣と会っておられたようなんですけれども、どういうふうなお話をされたんでしょうか。

(答) これは別にお話ししても全くいいことなので。実は、昨年の道路交通法改正でラウンドアバウト交差点ができるようになりました。ラウンドアバウト交差点というのはもう皆さん御承知のように、イギリス等々に行きますと、信号がなくて、ぐるっと環状交差点というんですかね。これは実は交通事故抑止の視点からも、景観からも、あるいはCO₂の削減等々からも、非常に効果がありますね。諸外国の例が実証しています。それから、もう一つは軽井沢と飯田で既に実証実験をしまして、非常にいい成果が出ています。だからこそこの道路交通法改正をさせていただいたんですが、今後はできるだけ多くの地域で

このラウンドアバウト交差点、環状交差点ともいうんですかね、日本語では。ラウンドアバウトでもいいと思いますけれども、これを普及していただきたいということで、一番、新藤大臣は都道府県知事あるいは首長とお目にかかる機会が多いので、是非そういった協力、推進をしていくようにということで、お口添えをいただきたいということでお目にかかせていただきました。なお、その前にも国土交通大臣にも同種のお願いをさせていただいております。

私はこれは本当に景観上も非常にいいことだと思いますね。現実には新たに信号を作ってくれとか、そういった要請は結構来てはいますが、それはやはり信号ではなくて、こういうラウンドアバウト交差点、もちろん土地とかの状況が許せばの話ですけれども、そういった取組をすることもいいですし、信号機を新設する場合は500万円ぐらいかかりますので、同じような費用でこのラウンドアバウト交差点をやることができるところについては、是非積極的に取り組んでいただきたいなど。本当に景観が違いますよ。海外に御勤務された方は分かると思うんですけれども、きれいですよね。そういう意味では是非推進をしていきたいと思っております、お願いをさせていただいております。そんなことです。

（問）すいません。ちょっと話戻るんですが、横田夫妻の件で、先ほど「訪朝することはないと思います」と大臣はおっしゃられましたけれども、それは横田夫妻側の情報。

（答）これは家族会で正式決定をしていることですよね。ですから、ウンギョンさんとの面会も第三国、ウランバートルというところだったので、御本人も行かれたと思いますし、また、家族会もそういう趣旨で発言していますね。

（以 上）